

# 《楽曲解説》

解説＝池原 舞

1/15 第872回サントリー定期シリーズ  
1/17 第873回オーチャード定期演奏会

サントリー

1/15

オーチャード 1/17

オペラシティ 1/21

## 東京フィル&井上道義の復活公演

今月のサントリー定期シリーズおよびオーチャード定期演奏会では、ショスタコーヴィチの交響曲第7番『レニングラード』に、ハチャトゥリアンのバレエ組曲『ガイーヌ』を組み合わせるといふプログラム。どちらも、1941年前後に作曲され、42年に初演された作品である。この時代の旧ソヴィエト連邦では、国の政策により、芸術においても社会主義的な内容や民族的な形式が称揚され、前衛性が全面的に否定されていた。表現の自由が極度に狭められた環境のなかで、作曲家たちはそれぞれの立場から、生き

る道を模索しながら芸術と向き合った。我々の時代からは想像し難いことであるが、彼らは文字通り命がけて作曲した。。

この重いプログラムを指揮するのは、10月に活動復帰を果たした井上道義。実はこの2曲、昨年7月に第851回オーチャード定期演奏会で演奏される予定だった。しかし4月に、咽頭癌発覚によって井上が活動を休止することとなったために、公演延期となっていた。約半年間の闘病期間を経た井上と東フィルの復活公演となる。とりわけ、ショスタコーヴィチの7番は井上の得意とするレパートリーである。

ハチャトゥリアン(1903-1978)

## バレエ音楽『ガイーヌ』第1組曲より抜粋

ばらのおとめたちの踊り(約2分)

子守歌(約5分)

山岳民族の踊り(約2分)

レスギンカ(約3分)

アラム・イリイチ・ハチャトゥリアンは、グルジアの首都トビリシに生まれたアル

メニア人の作曲家である。ミヤスコフスキー(1881-1950)のもと、モスクワ音楽院で作曲を学んだ。西洋の伝統的な語法に、東洋的な民俗素材を融合させた作風が評価され、1954年には、旧ソ連の栄誉賞号の一つである「ソ連人民芸術家」に認定されている。

シヨスタコーヴィチ(1906-1975)

## 交響曲第7番 ハ長調『レニングラード』 作品60

- I. アレグレット(約29分)
- II. モデラート(ポーコ・アレグレット)(約15分)
- III. アダージョ(約19分)
- IV. アレグロ・ノン・トロppo(約19分)

ドミトリー・シヨスタコーヴィチほど、生前から今日に至るまでに、その人物像が二転三転した作曲家は、他にいないかもしれない。「旧ソヴィエト連邦を代表する作曲家としての立場を守るために、社会主義リアリズムに則った作品を書き、体制に迎合した作曲家」。一方で、それを真っ向から塗り替えるべく、1979年にアメリカで出版されたソロモン・ヴォルコフ編の『証言：シヨスタコーヴィチの回想』で暴露された、「内面においては体制を批判し続けたモダニスト」。あるいは、その著作の信憑性をめぐる批判とともに浮かび上がってきた「多重人格者」。

この揺らぐシヨスタコーヴィチ像は、結局のところ、彼個人の問題を超えて、社会主義国家ソ連における政治と芸術の関係という根本問題に尽きる。彼の死後40年経ち、ソ連消滅からおおよそ四半世紀が過ぎた今日、「シヨスタコーヴィチ」と「ソ連」を切り離して、作品自体の価値を再評価しようという立場が出てきたのも確かである。だがしかし、シヨスタコーヴィチ作品をシヨスタコーヴィチ作品た

らしめている、常軌を逸脱した「狂気」や「執拗さ」は、外的要因をどんなに捨象しようとも、異常な気迫でもって我々のもとに迫ってくる。そこには、何かに追い詰められた人間の姿が映っているのである。

1941年6月22日、突如としてドイツ軍がソ連領内に侵入し、独ソ戦争が勃発。ロシア国内で「大祖国戦争」と呼ばれることになる長い闘いが始まった。この戦争で大打撃を受けたのが、シヨスタコーヴィチの住んでいたレニングラード(現サンクトペテルブルク)である。ドイツ軍は包囲戦を展開し、鉄道を遮断。結果的に包囲は872日間にもおよぶこととなり、砲撃のみならず、飢餓による多くの死者を出した。

この歴史的悲劇の幕開けからほどない7月19日に着手されたのが、交響曲第7番である。それは全15曲におよぶ彼の交響曲のなかで、75分という最長の演奏時間を誇るだけでなく、第1楽章「戦争」、第2楽章「回想」、第3楽章「祖国の大地」、第4楽章「勝利」という副題のもとに構想された大規模な作品となった。包囲後のレニングラードにて、9月3日に、彼は第1楽章を仕上げた。2週間後の17日には、第2楽章を完成させる。第2楽章を書き上げたその日に、シヨスタコーヴィチは、レニングラード・ラジオを通じて、次のように語っている。

生。そのうちの一つである「第1組曲」のなかから、本日は4曲が演奏される。

**ばらのおとめたちの踊り** 木管楽器による可愛い旋律を、弦楽器のピツィカート(弦を指で弾く奏法)が彩る。ホルネットとチューバフォンによる対旋律も聴きどころ。

**子守歌** オーボエ・ソロの序奏で始まる。ガイヌが息子のリブシメを寝かしつける場面の音楽。フルートが幻想的な旋律を吹き、ヴァイオリンがそれを繰り返す。

**山岳民族の踊り** 歯切れのよいリズム動機の反復とともに、高揚していく。クライマックスでは、8分の7拍子という変則的な複合拍子となる。

**レスギンカ** コーカサス山脈に住むレスギン人の民族舞踊。乾いた小太鼓の響きを下敷に、速いパッセージが激しく駆け巡る。

**[楽器編成]** ピッコロ、フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、バス・クラリネット、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、アルト・サクソフォン、ティンパニ、大太鼓、シンバル、グロッケンシュピール、ゴング、小太鼓、タンブリン、トライアングル、シロフォン、チューバフォン、弦楽5部

4幕6場のバレエ音楽『ガイヌ』は、ハチャトゥリアンの代表作の一つ。「ガイヌ」とは女性の名前で、この物語の主人公のこと(日本ではフランス語読み「ガイヌ」で広く知られるが、ロシア語発音では「ガヤネー」となる)。アルメニア国境の山間で働く女性ガイヌが、悪事をたくらむ夫ギコを国境警備隊長のカザコフに引き渡すというストーリーである。

この、いかにも旧ソ連体制が好みそうな正義感に溢れたストーリーに加え、ハチャトゥリアンの音楽がもつ民族的な性格によっても、このバレエは高い評価を得ることとなる。『ガイヌ』は、もともと1939年にハチャトゥリアンが作曲したバレエ音楽『幸福』を改作したもの。『幸福』は、彼の祖国アルメニアの民謡の旋律やリズムを用いて書かれた作品であり、民族色がきわめて強い。実際にハチャトゥリアンは、同年の春と夏をアルメニアで過ごし、民謡旋律について研究している。

『ガイヌ』は、1942年12月9日、ウラル山脈の麓にあるロシアの都市モロトフ(現ペールミ)で、キーロフ・バレエ団によって初演された。翌1943年に、バレエ全曲からの抜粋による3つの組曲が誕

1時間前に、私は壮大な交響曲の第2楽章を書き終えました。もし……第3・4楽章を書き上げることができたら、それは、私の第7交響曲となります。なぜ、私はこのような話をしているのでしょうか。それは、今、私の話をラジオで聞いてくださっている皆さんに、この町で普段と変わらない日常生活が営まれているということをお伝えしたいからです。

食料の配給が日に日に激減していくなかで、大作曲家からの勇気づけの言葉は、レニングラード市民へ、いくばくかの安心を与えたに違いない。しかしその後、29日に第3楽章が完成されるや否や、ショスタコーヴィチ一家は疎開を余儀なくされるほど、戦火は広がっていた。一家はモスクワまでは空路で、そこからは汽車に乗って、クーイビシエフという町に疎開する。こうして12月27日に、疎開先で最終楽章を完成させた。

**第1楽章** 冒頭で堂々と演奏される勇ましい旋律が主要主題である。対する優しい旋律が副主題。ピッコロによる爽やかなソロに次いでヴァイオリンが繊細なソロを奏でたあと、この交響曲のシンボルでもある「侵略のエピソード」が始まる。小太鼓が351小節間ひたすら行進のリズムを刻む上で、木管楽器を筆頭に同

じ旋律が繰り返し替えられ、徐々に新たな楽器が加わって、音量が大きくなっていく。爆発的な音響の果てに一旦収束し、悲しみの葬送行進曲となる。

**第2楽章** 優雅さと諧謔性が共存するスケルツォ。クラリネットによる叫び声のようなソロで始まる中間部は、高い緊張感に包まれる。

**第3楽章** ファンファーレ風の序奏で開始する。感動的なアダージョ。朗々と歌われるヴァイオリンを中心とした主部分を軸に、別の部分が挟みこまれていくロンド・ソナタ形式。中盤に置かれたフルートのソロとソリ(ソロの複数形)や、終盤における激しく好戦的な音楽は、主部分との対照を成す。

**第4楽章** 銅鑼が3度鳴らされて終わる第3楽章から、切れ目なしに続く。混沌とした空気は、低弦の暗く弾むような主要主題が奏されてすぐに打ち破られる。第1楽章にも通じる戦闘的な性格は、金管楽器と打楽器の活躍によって助長され、厳粛な副主題に引き継がれる。

[楽器編成] フルート3(2番はアルト・フルート持ち替え、3番はピッコロ持ち替え)、オーガエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット3(3番はEs(Es)・クラリネット持ち替え)、バス・クラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン8、トランペット6、トロンボーン6、チューバ、ティンパニ、シロフォン、小太鼓3、トライアングル、タンブリン、タムタム、シンバル、大太鼓、ハーブ2、ピアノ、弦楽5部